

# ほんとうに

1

# あった



ミイラのなぞ

# ふしぎな話

桜井信夫・文 佐竹美保・絵





## ミイラのなぞ

死んでもなお永遠に生きたい

古代エジプトといえ、すぐに思いおこされるのが、ピラミッドやスフィンクスであり、ミイラだ。

「たとえ死んでも、そのままに死体をたもっておけば、ふたたび生命をよみがえらせる力が、そこへもどってくる」

と、古代のエジプト人は、かたく信じていた。





# ほんとうに

2

ナスカ  
地上絵のなぞ

あった

ふしぎな話  
そのなぞ

桜井信夫・文 佐竹美保・絵



ナスカ  
地上絵のなぞ



砂漠の神秘

「ともかく、これは大発見かもしれないぞ。砂漠の平原の上に、こんな巨大な絵が、えがかれていたなんて、いままで、だれひとり気づいた者はいなかったのだから」



ほんとうに

3

ヒマラヤの  
雪男のなぞ

あった



ふしぎな話  
冬や夏

桜井信夫・文 佐竹美保・絵





# ヒマラヤの 雪男のなぞ



## 万年雪に住む毛ぶかい野生人

ヒマラヤは「世界の屋根」とか、北極と南極につぐ「第三の極地」ともいわれる秘境だ。五千、六千メートルをこえる山また山がつらなり、八千メートルをこえる山も数多い。一年中消えることなく残っている万年雪が、氷河